

ビデオ視聴と自他レポート吟味による批判的思考力育成のための授業設計

Course Design to Promote Critical Thinking Skills by Documentary Video Viewing and Mutual Essay Review

仲林 清^{*1*2}, 田中孝治^{*3}, 池田 満^{*4}

Kiyoshi NAKABAYASHI^{*1*2}, Koji TANAKA^{*3}, Mitsuru IKEDA^{*4}

^{*1}千葉工業大学, ^{*2}熊本大学, ^{*3}金沢工業大学, ^{*4}北陸先端科学技術大学院大学

^{*1} Chiba Institute of Technology, ^{*2} Kumamoto University,

^{*3} Kanazawa Institute of Technology, ^{*4} Japan Advanced Institute of Science and Technology

Email: knaka@net.it-chiba.ac.jp

あらまし：講義型の多人数授業で批判的思考を促すための授業設計を提案する。学習者が既有知識を有すると想定される問題領域の知識体系を説明し、その観点に基づいて具体事例のビデオ視聴、分析レポート提出を行う。次回授業で全員のレポートを配布、適宜紹介し、自他の考えを比較・吟味させる。この過程で、批判的思考の「規準に従う論理的・合理的思考」、「推論プロセスを意識的に吟味する内省的思考」、「文脈に応じた目標志向的思考」という観点を意識させる。

キーワード：批判的思考、ドキュメンタリービデオ、理論と経験の対比、既有知識の活用

1. はじめに

批判的思考力は、21世紀型スキル⁽¹⁾の中に位置づけられるなど、多くの論考や教育実践が存在し、その重要性は論をまたない⁽²⁾⁻⁽⁴⁾。本稿では、講義型の多人数授業で、批判的思考を促進するための授業設計を提案する。学習者の経験が想定される問題領域に関して、知識体系の説明、具体事例のビデオ視聴、分析レポートの作成と自他レポートの比較・吟味を行う。この過程を通じて事例ビデオの内容を「知識体系に従って論理的に」、「真正な文脈での目標志向的思考」で分析し、「自他の思考過程を吟味・内省」する、という批判的思考を促す。

2. 批判的思考と教育方法

批判的思考は「規準に従う論理的・合理的思考」、「推論プロセスを意識的に吟味する内省的思考」、「文脈に応じて実行される目標志向的思考」という3つの観点で定義される⁽⁵⁾。また、批判的思考の教育方法は大きく、「一般原則を教えるジェネラルアプローチ」、「特定科目の中で批判的思考を明示的に教えるインフュージョンアプローチ」、「特定科目の中で批判的思考を誘発させるイマージョンアプローチ」に分類される⁽²⁾⁻⁽⁴⁾。いずれの場合でも、学習者の相互作用促進のためグループワークなどを取り入れる形態が多いため⁽⁴⁾、多人数授業への拡張が難しいという問題がある。また、学習者の協同が必ずしも効果を産まないというメタ分析も存在する⁽³⁾。これに対し、本研究はグループワークなどを伴わない講義型の多人数授業で批判的思考を効果的に促すための授業設計の確立を目指す。

3. 提案する授業設計

本授業設計は、前述の批判的思考の3つの観点を包含し、「特定科目の中で批判的思考を明示的に教え

るインフュージョンアプローチ」に近い形態を採る。

授業設計の枠組みを図1に示す。学習者が経験・既有知識を有すると想定される問題領域の理論・知識体系を説明し、知識体系の観点に基づいて具体事例のビデオを視聴させ、分析レポートを提出させる。次回授業で全員のレポートを配布し、教員が適宜紹介して、自他の考えを比較・吟味させる。必要に応じてこれを繰り返す。この過程において、上記の3つの観点を明示的に伝えることで、以下のように批判的思考を促進する。

● 観点1：規準に従う論理的・合理的思考

対象問題領域として、「組織における問題解決」⁽⁶⁾、「企業のビジネスモデル」⁽⁷⁾など、われわれが授業実践でこれまで扱ってきたものを取り上げる。これらの領域では、明確な正解はないが、経験から導かれた体系的な理論や知識が存在する。これらの理論・知識を現実の場面に適用したレポートを作成させることで、状況の論理的な分析が可能となり、合理的な解決策の見通しが得られる、という思考を促進する。

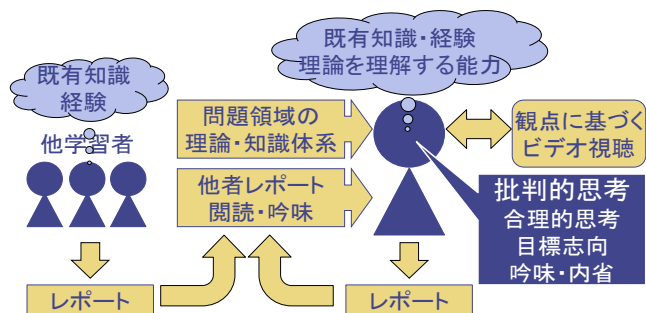


図1 授業設計の枠組み

● **観点 2：推論プロセスを意識的に吟味する内省的思考**

批判的思考において、自身の思考をメタ認知的にモニタリング・コントロールすることは非常に重要である⁶⁾。本研究では、これを促進させるため、他者レポートの閲読を活用する。同じビデオを視聴してこれを体系的知識を適用して様々に解釈していると考えられる他者のレポートを閲読させ、自身の解釈・分析と比較させることで、自身の思考プロセスを内省的に振り返らせる。

● **観点 3：文脈に応じて実行される目標志向的思考**

批判的思考は、現実の目標に照らして適切な状況で発揮することが重要である⁶⁾。ビデオでは、現実の真正な文脈における登場人物の問題解決行動が描かれる。彼らの問題解決の目標・文脈に鑑みて、脱文脈化された体系的知識をその状況に適用することが適切か否かを検討させることで、文脈に応じた目標志向的思考を促進する。

4. 具体的な授業例と期待される効果

図 1 に示した授業設計の枠組みは著者らの先行研究⁶⁾と同様のものである。先行研究では、問題解決やビジネスモデルに関する体系的知識の習得自体が目的であったが、これらの実践の授業評価では、観点に基づくビデオ視聴や自他レポート吟味で理解が深まった、という明確な結果が得られており、表 1 の学習者コメントにも見られるように、授業を通じて批判的思考を暗黙的に行っている蓋然性が高い。例えば、表 1 の最初のコメントには、理論（仮説思考）による「規準に従う論理的・合理的思考」が、2 番目のコメントには、他者の思考プロセスを意識して「推論プロセスを意識的に吟味する内省的思考」が現われている。

また、自身の経験をレポートに表出した学習者の授業評価が高くなる、というデータも得られており、自身の経験を知識体系から論理的に内省していることも期待される。すなわち、表 1 の 3 番目のコメントは、授業内容と学習者自身の経験との結びつきに言及して、ビデオの登場人物の問題解決の文脈を、自身の文脈に置き換えて「文脈に応じて実行される目標志向的思考」を行っていると考えられる。

しかし、これまでの実践の主眼は学習主題の理解であり、学習者の思考過程への介入やその評価検証は行っていなかった。本研究では、授業設計の枠組みは保ちつつ、批判的思考を促進させるための思考過程への介入を組み込み、学習者に批判的思考やその基盤となる経験・既有知識と知識体系の統合を陽に意識させることを狙いとしている。

例えば、「組織における問題解決」⁶⁾ で用いた「仕事の流儀」のビデオで、旅館従業員の業務改善打合せが感情的発言によって混乱する場面がある。この場面は、問題解決の知識体系の視点からは、「事実共

有」、「ファシリテーション」、「組織ビジョン」など複数の重要な要素の欠如と解釈でき、学習者のレポートはこれらの複数の視点を含んだ多様なものとなることが想定される。しかし、先行研究では、他者レポートの閲読は行っていたが、自らのレポートとの比較吟味までは指示していなかった。本研究では、上記の「観点 2：推論プロセスを意識的に吟味する内省的思考」に鑑みて、レポート紹介で複数のレポートに含まれる異なる視点を強調し、次のレポートで自他レポートの比較記述を指示して、自らの思考過程を意識的に吟味・内省させる。

また、先行研究では、学習者の経験や既有知識との結びつきを重視した設計を行った。例えば、「組織における問題解決」では、大学生のサークルやアルバイトでの経験が問題解決の体系的知識と結びついて理解が促進されることを確認している。本研究では、さらに、自身の経験を「観点 1：規準に従う論理的・合理的」、「観点 3：文脈に応じた目標志向的思考」から振り返らせることで、自身の経験を体系的知識で裏付けることで、それが課題領域における批判的思考に活用できるというメタ認知の促進を図る。

表 1 先行研究の自由記述コメント例⁶⁾

(1 回目の視聴では) 仮説的思考については思いつきもしなかったので、2 回目の視聴でそこを重点的に観察し、それについて考えを直した結果、星野さんが従業員をただ信じているというよりもロジカルに考えた結果の行動であることがわかるようになった。
(他者レポートで) 自分では気づかない点が挙げられるとそこに至るにはどんな視点で観察すべきかということを考えることができた。
実際に自分のサークルやアルバイトなどの経験と、ビデオに出てくるような人を比べ、自分に何が足りないのかなどを考えることができてよかった。

参考文献

- (1) P.グリフィン, 他 (編), 三宅なほみ, 他 (監訳): “21 世紀型スキル: 学びと評価の新たなカタチ”, 北大路書房 (2014)
- (2) Ennis, R.H.: “Critical Thinking and Subject Specificity: Clarification and Needed Research”, Educational Researcher, 18, pp.4-10 (1989)
- (3) Abrami, P.C.: “Instructional Interventions Affecting Critical Thinking Skills and Dispositions: A Stage 1 Meta-Analysis”, Review of Educational Research, 78, pp.1102-1134(2008)
- (4) 道田泰司: “批判的思考教育の展望”, 教育心理学年報 52, 128-139 (2013)
- (5) 楠見 孝 (2011) 批判的思考力を育む—学士力と社会人基礎力の基盤形成—, 有斐閣.
- (6) 仲林 清: “組織における問題解決を主題とするビデオとオンラインレポートを活用した授業実践”, 教育システム情報学会誌, Vol.32, No.2, pp.171-185 (2015)
- (7) 仲林 清: “ビジネスモデルにおける IT の活用を主題とするビデオとオンラインレポートを活用した授業実践 —コンビニエンスストアの事例を題材に—”, 教育システム情報学会誌, 34(2), pp.131-143 (2017)